

令和6年度第2回北陸圏広域地方計画有識者懇談会 議事概要

日時：令和6年11月13日(水) 14:00～15:30

場所：金沢河川国道事務所 2階大会議室（オンライン併用）

1. 開会

2. 挨拶

[北陸地方整備局 副局長]

- ・令和6年能登半島地震や令和6年9月20日からの大雨では、能登半島において大きな被害が発生し、国土交通省では現在も復旧・復興に取り組んでいるところである。
- ・この有識者懇談会は、令和6年9月3日に開催した「ほくりくダイアログ2024」で頂いた若者の意見や、これまでも様々な方々から頂いた意見を反映して策定した、第三次北陸圏広域地方計画の中間とりまとめ（素案）について、皆様から忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げます。

3. 報告

(1) 若者からの意見聴取について ～ほくりくダイアログ2024開催報告～

[事務局]

- ・資料1 説明

[座長]

- ・ただいまの説明について、意見、質問等あればお受けする。

[委員]

- ・Aグループは北陸圏から首都圏へ流出しているグループだが、このグループから意見が得られたのは大きな財産だ。
- ・5時間のプログラムであったが非常にタイトで、色ワークでの色の変化について掘り下げた分析ができなかったため残念である。
- ・しかし、積極的な参加申し込みや、今後、同様の機会があったら参加したいという方がほとんどであり、大変ありがたいことである。今後もこのような機会を設けられるよう、計画の中にも取り扱ってもらいたい。

[委員]

- ・非常に一生懸命にワークショップを実施してもらい感謝申し上げます。
- ・地理学的な視点では、どの地域でも挙げられる意見と、北陸ならではの意見に区別して分析するとよいのではないかと。課題の特徴などについてどのような意見があったのか興味がある。

[委員]

- ・北陸圏に対するネガティブな感情として、天候、街の明るさ、選択肢が限られていることなどが意見として挙げられていた。おそらく、天候を除けば他の地方都市でも同じであると思う。

- ・しかし、Aグループでは、寛容性の狭さや低さに重点を置いていたため、「教育」という提案が大きく出ていた。北陸圏は、学力や幸福度は全国トップクラスであるが、実際に住んでいる人々は幸福なのかという点を指摘された結果であった。

[委員]

- ・ポジティブとネガティブがテーマであると勝ち負けになりやすいが、むしろこの勝ち負けに注目することが重要である。例えば、北陸圏と同様に寒いイメージがある北欧の生活には、ランプの揺らぎある光があり、この点を追求すると観光地ではなく目的地になり得る。
- ・北陸圏は素材のクオリティが高く、かつ、サービスのクオリティも高い。北陸圏は京都の文化や東京・名古屋との繋がりもあり、多様性があるサービス提供が可能である。

[委員]

- ・参加した若者からの意見で印象に残っているものがあり、北陸圏は街の明かりは暗いが、地域には希望の光があるということを強調していた。多様な文化が創出される地域づくりができれば、希望のある若者が増えてくるのではないかと。

[委員]

- ・田舎には田舎の生活スタイルがあり、私たちの安全・安心でクオリティの高いライフスタイルは、都会とは異なる定義で活動が可能である。そのような取組を深掘りしていくと、他地域が羨ましがするような地域になる。

[委員]

- ・北陸圏外から来た若者からは中心市街地の賑わいを求める意見があったが、地域との接点がないため、地域をどのように盛り上げていくかという発想に至っていないものと考えられる。
- ・一方で、地元自治体に勤務する若者からは、普段から地域との対話を創出するような仕事をしており、そのようなことを通じて地域の力を盛り上げていく必要があると意見しており、私もそれが重要であると思う。

[委員]

- ・Eグループ及びFグループは北陸圏外の出身で北陸圏内に在住であるが、男性のみのグループであったため、グループ内に女性がいたら異なる意見も挙げられたのではないかとと思う。

[委員]

- ・背景として、転勤で異動されるのは男性社員が多いものと考えられるため、女性をもっと転勤ができる環境になると女性とも意見交換ができるのではないかとと思う。

[委員]

- ・若者であるため金銭的な面をあまり気にしていないのか、安くておいしいものが食べられることや、おいしい水が飲めることなど、北陸圏の優れた点などについては、若者だからこそ出てこない意見もあるのではないかとと思う。

- ・北陸圏は関東と関西の中間点があるが、関西からの意見もあると良かったのではないかと感じた。

[委員]

- ・時間があれば、広域地方計画への提案だけではなく、自分たちがどのように地域を引っ張っていきたいのかなど、そういった意見まで掘り下げを行いたかった。

4. 議事

(2) 第三次北陸圏広域地方計画 [中間とりまとめ(素案)] について

[事務局]

- ・資料2 説明

[座長]

- ・ただいまの説明について、本日欠席の委員からご意見が提出されているため、事務局から説明を願いたい。

[事務局]

- ・資料2-1について、今回の奥能登での集中豪雨災害で、大量の流木が発生し、深刻な被害が生じたことを考慮すると、山地の手入れが難しくなっている現状に対する何らかの対策、改善について、防災の観点からも言及したほうがよいと思う。
- ・土地の適正な利用・管理の推進に言及されているところに関して、災害リスクが高い地域・エリアでの土地利用の抑制・制限の検討について、文面上でより分かる形で記載することはできないか。
- ・事前防災に関する言及があるところについて、中小企業を含めて企業に事業継続計画の策定を促すような記載が入っていないのが気になった。

という意見が出された。

[座長]

- ・事務局からお答えすることはあるか。

[事務局]

- ・防災教育や啓発活動を効果的に推進する点や、災害リスク情報と合わせて広く住民等に周知・共有して理解の拡大を図るという点などについて、記載内容を検討して追記等をしていきたい。

[座長]

- ・委員の皆様から意見、質問等あればお受けする。

[委員]

- ・災害リスクが高い箇所に住まいしないように居住誘導することは非常に重要であると思う。このため、災害リスクが低い箇所への居住誘導について、幼少期から教育していく必要があると思う。
- ・中枢中核都市、中心都市、中核都市、拠点都市という単語が記載されているが、北陸圏は中枢中核都市ということは考えず、中核都市の連接都市圏という地域構造を考えていくという議論をしてい

たと思うので、「中核」という言葉はなくてもよいと思う。また、中核都市となる県庁所在地の3都市と、それ以外の新幹線が停車するような中心都市を拠点都市として、地域生活圏を形成するイメージで表現を整理した方がよい。

- ・広域的な港湾BCPについて、太平洋側と相互補完する防災ネットワークについて整理されているとよい。また、日本海側の港湾が代替機能を果たすことは重要であるが、どれだけ代替できるのかという点について十分に検討しておく必要があると思う。
- ・隣接圏域との連携に関して、どのような連携を行うのか具体的な施策が盛り込まれるとよい。例えば、新幹線の接続や国際コンテナ航路などの連携が考えられるのではないかな。

[委員]

- ・農業を取り巻く環境の変化について、今後10年間を考える場合、最近の高温化や大雨など自然環境の問題も深刻化する可能性もあるので、安全保障という観点でこれらに対応する必要性があることを記載されているとよい。
- ・日本の産業の強さはリバイタルによる第二創業期であり、長寿企業に対する用途開発と販路開拓支援などのリバイタルに関して再考する必要がある。
- ・地元学に基づく人材育成が必要であり、「なぜ、自分が、地域が」という「Why」の部分の組織的な人材育成により、その結果として様々な動きが生まれるという「仕組み化」が必要である。

[委員]

- ・今後も若者やステークホルダーとの対話を継続していくことが重要であり、本計画が目指している地域の課題を自分ごととして考える人の拡大を図ることに寄与すると思う。
- ・多様性のある地域づくりプロジェクト(PJ2)は、記載されている内容からすると、多様性という観点だけではなく、包摂性の考え方も含まれているものと思う。
- ・個性豊かな観光地域づくりPJ(PJ9)は、観光に関する記載となっているが、先ほどの若者からの意見を踏まえると、圏域外からの観光だけにせず、近くの利便性の高い場所に違う性格、良さを持つまちがあるというのは、若い人にとっても魅力だと思うため、圏域内の人々にとっても、近くに別の魅力があることも評価してよいのではないかな。
- ・創造的復興という言葉あるが、どういうところが創造的なのか読み取りにくいので説明を工夫してほしい。

[委員]

- ・災害時における電力確保として再生可能エネルギーの活用に関する記載あるが、能登半島地震でも復旧に時間がかかったので、自家発電や復旧の早い電力という表現のほうがよいと思う。
- ・インフラの強靱化を図るため、ライフラインのオフグリッド化の検討に関する記載がされているが、特定箇所のみではなく全域で取り組まないと、復旧に時間がかかってしまうため、それぞれの地域でまちづくり協議会を設立して助成金によるサポートなどで推進していく取組が必要である。
- ・自然災害の激甚化・頻発化を踏まえて、従来の堰き止め型のダムだけではなく、自然との共存など新しいダムのあり方について検討が必要である。これは、インフラメンテナンスに関する施策に、従来どおりにメンテナンスするだけでなく、既存の設備のあり方について見直すという表現も記載した方がよい。

- ・震災からの復旧・復興の中に観光があるのは飛躍しているように感じられるので、地域の人々が愛着を感じるまちなみを戻すという表現があった上での、観光の発信という表現に変えるのがよい。

[委員]

- ・観光地をつくるというより、ストーリーをつないでいくことに価値が出てくるので、そういった体験をつないでいく観光のあり方が入ってもよい。北陸圏という広域で考えられたら大きなストーリーになる。
- ・中間とりまとめ（素案）の概要資料（資料2）について、活力ある農林水産業形成プロジェクト（PJ5）に関する取組事例は、スマート農業ではなく、他にも広域連携を活かした事例を入れるとよい。
- ・農林水産業はまさにチャレンジ領域の時代に入っているため、これまでの農林水産業の再建や発展だけでなく、新しいチャレンジであるという表現があってもよい。

[委員]

- ・ダイバーシティの推進にむけて、女性が北陸に定着しない理由として、企業の中で働いている女性の姿が見えないからであると思う。学校教育に関して記載はあるが、北陸の企業の考え方は遅れているため、企業の方を教育しなければならない。
- ・北陸圏グリーン化プロジェクト（PJ4）に自然環境保全に関する意識啓発が記載されているが、国立公園や自然公園だけではなく、身近な自然を学ぶ機会も必要であるため、さらに広い意味での自然教育にするとよい。

[委員]

- ・中間とりまとめ（素案）の概要資料（資料2）の別紙に、見出しとして「横断的取組：他圏域と連携した広域連携プロジェクト」とあるが、震災からの創造的復興プロジェクト（PJ13）が、他圏域と連携した広域連携プロジェクトの中に入るのは収まりが良くないため、見出しを修正した方がよい。
- ・中間とりまとめ（素案）の概要資料（資料2）で記載している取組事例について、福井県内における取組事例が少ないので、地域的なバランスを考慮した方がよい。
- ・中間とりまとめ（素案）の概要資料（資料2）で記載している伝統的建造物保存地区の取組事例について、富山県の事例も入れた方がよい。

[委員]

- ・参考資料2の意見として他省庁との連携について記載されているが、他省庁との連携について具体的にどのような省庁と連携するのか整理されているとよい。
- ・また、参考資料2に前回の発言として、省庁間だけではなく地方自治体との連携の必要性についても追加してほしい。

[委員]

- ・ハード面の防災のみならず、防災力をコントロールできる人材の育成についても必要である。
- ・中間とりまとめ（素案）の概要資料（資料2）で記載している取組事例について、富山市のコンパ

クトシティが掲載されているが、富山市ではスマートシティを推進しているため、こちらの取組事例を掲載した方がよい。

[座長]

- ・事業継承は企業のみならず、農林水産業等の担い手など、一次産業の事業継承も重要である。
- ・隣接圏域との連携について、広域連携の促進を図るため、東北圏、近畿圏、首都圏との連携は重要である。
- ・ダイバーシティについては、人間だけではなく地域の多様性も重要である。北陸は連接都市圏として新幹線や高速道路で接続されているので、それぞれの地域の特性を活かしながら、各地域の多様性を引き出していくことが重要である。

4. その他

[事務局]

- ・本日の懇談会資料及び議事録の公開非公開について確認させていただく。
(会議資料、議事概要は公開で、委員承認)

5. 閉会

[北陸信越運輸局 交通政策部長]

- ・若者からの意見聴取や震災等への対応などについて、非常に熱心にご議論をいただいた。
- ・様々な業界で人材不足と言われている中で、北陸圏から若者の流出を食い止め、他の地域からも呼び込んでいくというなかでは、若者の視点も非常に大切だと感じた。
- ・北陸圏の発展のため、有意義な計画を策定していきたいと考えているので、引き続きご協力お願いしたい。